

Psychological characteristics associated with the brain volume of patients with fibromyalgia

伊津野, 巧

<https://hdl.handle.net/2324/7182361>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 : © The Author(s) 2023.



氏 名： 伊津野 巧

論文名： Psychological characteristics associated with the brain volume of patients with fibromyalgia

(線維筋痛症患者の脳容積と心理指標との関連)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

線維筋痛症（FM）は、慢性の広範囲な疼痛を主症状とし、不安、抑うつなどの精神症状を伴う疾患であり、痛みの破局的思考が認められることが報告されている。本研究では、女性FM患者の脳容積の特徴および心理指標と脳容積との関連を検討した。39名の女性FM患者と25名の女性健常対照者（HC）を募集し、5名のFM患者は白質病変のため解析から除外した。1) FM患者群34名（年齢 41.6 ± 7.4 歳）とHC群25名（年齢 39.5 ± 7.4 歳）のT1強調画像を撮像し、SPM12を用いて灰白質・白質容積をそれぞれ比較した。2) FM患者34名（年齢 41.6 ± 7.4 歳）を対象に、不安・抑うつの質問票（State-Trait Anxiety InventoryおよびHospital Anxiety and Depression Scale）、疼痛破局的思考尺度（下位尺度：反芻、無力感、拡大視）とMRIの撮像を施行し、心理指標と脳容積との相関解析を行った。その結果、1) HC群と比較してFM患者群において側頭極の白質容積が大きかった。2) 心理指標と灰白質容積との相関解析では、特性不安と扁桃体との間に負の相関がみられた。白質容積については、抑うつと脳幹、拡大視と中心後回との間に正の相関がみられた。女性FM患者の脳容積の変化は、不安、抑うつ、疼痛破局的思考と関連している可能性がある。